

日本 OECD 共同研究月間

テーマ

「ホンキで、インクルーシブ」

“Diversity, Equity and Inclusion (DE&I) in Action” MARATHON OF EVENTS - MARCH 2023

## 成果報告書

### 1. 背景

本行事は、2022年8月に実施した「日本OECD共同研究 国際共創プロジェクト：壁のないあそび場—bA—場開きワークショップ」(後援:文部科学省、外務省、内閣府)に続く、東京学芸大学とOECDが「日本OECD共同研究」の枠組みで共同開催した第2回目のワークショップです。

### 2. テーマと目標

今回のワークショップは、2022年12月に開催された[OECD教育大臣会合](#)のテーマである “*Re-building an inclusive and equitable society through education*” (教育を通しての包括的で公平な社会の再構築(仮訳))を日本の文脈に置き換え、「ホンキで、インクルーシブ」をテーマに添えました。

本テーマを中心に、以下4点を目標として開催しました。

1. [OECD東北スクール](#)(2012-2014)のスピリット(過去・常識・国境を超える)を継承するコミュニティとして、「日本における”DE&I”(ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン)」について、過去を振り返り、未来がDE&I溢れるために、どのような常識を超えなければならないのか、国境を超えて探究する様々な対話の場を提供する。
2. 社会との共創事業の一環として、これまでに繋がってきた多種多様な産官学ステークホルダーの皆様を共創パートナーに迎え、複数のワークショップをマラソンのように開催することで、コレクティブインパクトを目指す。
3. 通常はOECD本体のEducation2030コミュニティメンバーのみが参加可能な国際会議に、通訳を配して敷居を低くすることで、生徒を含む日本の教育関係者に参加いただき、世界の仲間と国際共創するプロセスを肌で感じていただく。
4. そして、この共同研究月間を足がかりに、異なる国の生徒たちがOECDラーニング・コンパス (学びの羅針盤2030)を手に、自らの無限大の可能性を信じて、より良い未来を共創する国際共創プロジェクト「プロジェクト無限大」への国内参画者の公募につなげ、2024年にパリで開催予定の「生徒・教師国際サミット(仮)」にむけての仲間集めを加速させるための場となることを目指しました。

### 3. 行事の概要

- 期間 : 令和5年3月3日～31日に17のワークショップを実施
- 主催 : 東京学芸大学, 経済協力開発機構(OECD)の共同開催
- 後援 : 文部科学省、外務省、内閣府

#### 4. 主な成果

世界に普遍的な課題であるOECD教育大臣会合のテーマ“*Re-building an inclusive and equitable society through education*”(教育を通しての包括的で公平な社会の再構築(仮訳))を日本の文脈で置き換えた「ホンキで、インクルーシブ」について、17のワークショップを開催し、のべ約1,300名を超える参加者が、世界38か国から参加しました。

参加者内訳(のべ):生徒約300名、大学生・院生約140名、教師約420名、研究者約130名、NPO/企業約100名、その他約210名、合計のべ約1300名

参加国:オーストラリア、カナダ、コロンビア、フランス、ドイツ、エストニア、デンマーク、アイルランド、イスラエル、イギリス、インド、モルドバ、ポルトガル、ウクライナ、シンガポール、カザフスタン、アメリカ、韓国、日本、など世界38か国

17のワークショップ(別紙参照)のうち、上記目標に沿った主な成果は以下の通りです。

目標(1)「日本における”DE&I”(ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン)」について探究する対話の場を4回提供

- 3/19 若手研究者の眼
  - インクルーシブな未来の実現に向けて、日本の未来の教育の課題となるテーマに、いち早く立ち向かっている若手研究者の取組を紹介。具体的には、現場に足を運んで見えてくる若手研究者の視点から、長期入院児童生徒に対する教育支援や、外国にルーツを持つ子どもの教育、学校内での居場所づくり実践、学校統廃合を経験した学校などについて、現場に足を運んで見えてくる若手研究者の視点から、報告と対話を行った。
  - また、日本の教育政策研究の発展と今後の教育系NPOの充実、及び、教育分野における国際共同・共創研究の推進を目指し、日本OECD共同研究の一環として、若手研究者の支援の方向性を示した。
  - (参加者の声・教員)同じ志を持つ仲間がいると改めて実感し、元気をもらえました!このような機会を継続して行い、それぞれの取り組みを価値づけていけると嬉しいなあと思いました。
  - (参加者の声・企業)病院の中の学校のことなど、これまで知らなかったことを知ることができて、世界が広がりました。
- 3/25 都立立川学園(聴覚障害教育部門)生徒企画「同じ地面に立つ私たち、虹色の個性」
  - 「障害は個性か」「かわいそうとは何か」、自分たちの<個性>を通して見える「日常の景色」を共有し、多様性溢れるインクルーシブな社会を目指すうえで、既存の社会にある「壁」について共に考えました。また、これまでに、イタリアの聴覚障害の生徒とも共創した、「耳」ではなく「手話」で聴くあべこべを体験するセッションも実施。
  - (参加者の声)今までに体験したことのないワークショップに感激したのと同時に、明日から少しでも、また一歩を踏み出したい。変わっていきたい!と思った経験になりました。
- 3/26 福島ワークショップ
  - OECD東北スクール発祥の地である福島で、複数の学校が、学校種・地域・年齢を超えてつながることで、ひとつの学校コミュニティを超えた対話の場を実現。対面では、福島の高校2校(郡山高校、あさか開成高校)、大熊町の帰還困難地域で被災した大学生に加え、都立立川学園生徒・教師も参加。「口から出た言葉を耳で聞く」という形以外のコミュニケーションを体験する

場となった。またオンラインでは、大阪の小学生、中学生、パリOECDも繋ぎ、海外との共創についてや、原発廃炉というテーマについても、対話を行った。

- (生徒の声)今日はとても刺激になる一日でした！！他校の方々と意見交換できたのはもちろん、ウクライナ、福島原発のことなどをたくさん吸収することができて、楽しく濃い経験になったと思います！郡山高校だけにいたらできない経験でした。ろう者の方ともお友達になれて嬉しかったです！
  - (生徒の声)色々な人と沢山お話ができてすごく楽しかったし、様々な意見や価値観を共有出来たことでまた新たな発見があった。立川学園の男の子に指文字が伝わったのが嬉しかった。また会ってもっと話がしたい
- 3/26-27 北海道大学 COI-NEXT × OECD プロジェクト∞BEING ALIVE –新たな可能性を生み出す次代へー
    - 1日目は対面で、健常者と障害者がお互いの違いを認め合いながら車いすバスケやボッチャ、車いすりレーを体験。「多様な人たちと目標に向かって共に生きること」をスポーツを通して体験的に学ぶ場を創出した。2日目は、オンラインでの参加者も加わり、ハイブリッドの形式で実施。「Home」に関してのショート・フィルム作品を視聴し、東京から対面参加したインド人学校の生徒たちが、彼らにとっての「Home」を共有。Homeについて考える対話を行った。また日本ではまだ馴染みの少ないプレコンセプションケアについて、多様なメンバーで対話した。
    - (生徒の声)体を動かすことで健常者とか関係なく楽しめた
    - (生徒の声)インド人と一緒に対話して、彼にとっての HOME はどこなのかなどを聞いてよかった。
    - (生徒の声)自分 1 人じゃ難しいと感じるものについても、みんなで対話することで色々な面から考え話すことができ、みんなで話すことは大事だなと思った。
    - (生徒の声)今日限りで終わらせるのではなく、OECD の活動にこれからも参加し、このメンバーで色々なことがしたいと思った。
    - (教師の声)現在の自分と距離があると感じるものでも学習する機会があることによって、より豊かに生きられるということを経験からすごく感じました。

目標(2)これまでに繋がってきた多種多様な共創パートナーと4回のワークショップ開催(ただし、コレクティブインパクトの成果は未知)

- 3/4 東京学芸大学高校探究プロジェクト:「令和の高校における授業改革」
  - 効率性を追い求めたこれまでの教育に対して、効率的なことはAIに任せられる令和の時代の「探究」学習の意義を、教科内、教科横断の両面から200名の参加者とともに模索した。
  - (高校生の声)私自身は生徒という立場のため生徒目線で考える機会が多いのですが、先生の立場になって考えることの重要さを感じました。それぞれの立場の目線も大事だからこそ、互いの意見や価値観が異なるからこそ、対話がより面白くなっていくのだと思います。
  - (大学生・院生の声)生徒と教員が共に学び合う姿勢が大切だと実感しました。
  - (教員の声)ほかの教科の取り組みの中でよいなと思ったものはぜひ取り入れていきたい。
- 3/12 先生って魅力的なオシゴト！第1部「先生になりたい！」って思ったとき、それが私の”タイミング”！早すぎない、遅すぎない！第2部教師になりたい学生目線で語る「理想の教室」、「受けない教育実習」

- 第1部では、「教員志望の学生が減っている」と言われる中、高校生の時から、また、社会人になってから、教員という職業を志望した時、しっかり制度が整っているのか。高校生や社会人の「教師を志望する想い」とともに、高校において、教職に関係する弾力的なカリキュラム開発に挑戦する福島県立・郡山高校と、社会人が働きながら教員を目指せる通信教育を実施している神戸親和大学の事例を紹介。教職魅力化につながる、「教職課程の多様化」を探った。
  - 第2部では、他国から教師になりたい学生を招き、他国との比較を通じて、日本の「教職課程」を学生同士で見直した。特に各国で「教室」がどう異なるのか、子どもたちが学ぶ毎日の環境に焦点を当てて比較。また教職課程の中でも、特に「教育実習」の内容・時間数など、他国との比較から、日本の教職課程の強みと課題を、対話した。
  - (参加者の声・教師)学校現場で生徒の過ごしやすさだけでなく先生方が過ごしやすくなると先生も生徒もいい関係を築くことができるいい学校(教育現場)になると思いました。
  - (参加者の声・学生)他大学や、実際に先生をしておられる方、OECDの方など、普段かかわりのない方々と、こうしてお話ができ楽しかったです。
  - (参加者の声・学生)What you do is really motivating and keeps me uplifted in my job search.
- 3/14 人的資本/社会関係資本/自然資本の活用で地方が熱い！
    - 教育予算という経済資本以外の日本の豊かな資本(人的資本・社会関係資本・自然資本)を大いに活用して、地域創生と探究学習の両立を実現し、子供たちにとって豊かな学びを実現しようとする取り組みを紹介。共創パートナーである、NPOや企業、在外教育施設の教師とともに、「学校と地域社会をつなぐ」「学校と地域と教育委員会など、地域まるごとつなぐ」「学校・地域が県を越えてつながる」、そして「学校・地域」が、「世界とも簡単につながるミライ」の実装を紹介。
    - (参加者の声)まだまだ使いきれしていないリソースに気がつきました。リソースがあっても、さまざまな壁にぶつかり、たどり着けないリソースもあります。リソースを使うための、工夫、ノウハウなどもぜひお聞かせいただきたいです
    - (参加者の声)皆さんの発表を聞き、ワクワクする内容ばかりでした。現在、教育行政に身を置く自分としては、関わっている学校とどのようなことができるか、示唆をもらえました。
  - 3/28 さんすう数学苦手な子集合！
    - 「OECD e2030の数学カリキュラム分析」と「福井の若手の数学の先生」と「生徒さん」とのコラボ企画。算数さんすう/数学の壁は、その後様々な社会的/経済的壁につながってゆく可能性が高く、幼児期や小学校低学年からの算数さんすう・数学力の向上に力を入れる政策/カリキュラムが世界的にも移行中。このような背景の元、先生と生徒さんの問題意識や実体験から「苦手なさんすう/数学、好きになる～！」の体験ができるようなアクティビティを企画。また、「評価」も、すでに決まったカタ(観点別評価やコンピテンシー評価)を当てはめるのではなく、とことん「生徒の声/着想から、ゼロベースで数学の評価を考える！」ことを実施。
    - (参加者の声)与えられた問題をノートの上で解くよりも、現実世界の場面と数学を往還しながら学ぶ授業の方が意欲的に取り組むことができ、その過程で広く深く、時には単元の幅を超えて学ぶことができるため、そのような授業が理想の授業だと感じた。
    - (参加者の声・高校生)数学の問題を解く中で現実場面でも学んだことを利用できないか考えることが多くなりました。

目標(3)OECD Education2030の国際会議がホストとなり複数マルチの国々を招いて開催した国際ワーク

ショップに、通訳を7回提供。運営面も含めて参画し、日本の教育関係者に、世界の仲間と国際共創するプロセスを肌で感じていただく機会を提供した。

- 3/8, OECD e2030 生徒部会「学校のウェルビーイング」について、世界各国からの生徒のみで対話
- 3/20 OECD e2030 EdTech部会「AIを教室で使う利点とリスク」  
生徒、教師、研究者、NPO、企業など、多様なメンバーで、テーマについて対話
- 3/24 OECD e2030 生徒部会「先生のことばの重み」  
「先生からかけてもらってうれしかったことば、悲しかったことば」について、世界各国からの生徒のみで対話

また、以下のワークショップには、日本から発表者として登壇。日本から世界への発信・日本のプレゼンスを高めることにとどまらず、発表の準備自体も、OECDや海外の共創パートナーとともに打ち合わせを重ねながら行い、世界とともに世界に発信する形で実施した。

- 3/3 日本OECD共同研究マラソン月間キックオフ:OECD e2030:「ディベートから対話へ」
  - 泉大津市立小津中学校教諭が、日本の禅の概念である「吾唯足知」の精神を、ブラジルから「パウロフレイレの対話」、インドから「群盲評象」とともに発表。対話を大切にする Education2030の文化を、キックオフワークショップで紹介した。
- 3/10 OECD e2030グローバルフォーラム:福島とウクライナの生徒の声:放射能と戦争の中で共に生きる
  - 福島県立郡山高校および福島県立安積高校の生徒が、福島の風評の現状と、その対策としての教育やメディアのあり方など、今の課題についての想いを語った。また小学生の時に震災を経験した学生は、この4月から東北大学大学院に進学し、デブリ研究に携わり、将来は地元大熊町の住民の目線も持ち合わせた研究者になることを目指していることを発表。福島の生徒たちにとっては、ウクライナ侵攻が「ニュースの中の話」ではなく、実態を伴った現実として捉える機会となった。
  - 兒玉和夫元OECD日本政府代表部大使が、「ウクライナの今」と「福島の今」の共通点についての言及。「個人の尊厳としてのAgency」、Agencyを身に着けた人間を育てる(empowerする)ことこそが、教育の重要な役割の一つであり、OECD東北スクール、そしてOECD e2030グローバルフォーラムが、正に、そうした「agency-empowering」の場であると応援くださった。
- 3/22 OECD e2030数学カリキュラム部会:ラーニングコンパスを数学で体現する
  - 東京学芸大学西村圭一教授が、ラーニングコンパスを日本の算数・数学科の授業でどのように体現しているかを実践例をもとに共有
- 3/31 日本OECD共同研究マラソン月間クロージング:OECD e2030ラーニングコンパス部会プロジェクト無限大「生徒と教師の国際共創」



- 泉大津市立小津中学校生徒、福島県立郡山高校生徒、福島県立安積高校生徒および教師が、「プロジェクト無限大」パイロット事業からの経験と、学校や個人に与えた変化を紹介。
- 東京学芸大学松田恵示理事・副学長が、日本OECD共同研究マラソン月間の閉会スピーチを行い、地域・国境を越えて出会い、つながることの大切さを改めて示せた1か月であったこと、またウェルビーイングのために今後も多様な皆様と信頼関係を築きながら共創していきたい、と謝辞を述べさせていただいた。

目標(4)国際共創プロジェクト「プロジェクト無限大」への国内での参画者の[公募](#)につなげた。

すでに、学校からの応募:約30件、また個人(大学生、研究者、企業含む)の応募:約40件いただいております、応募者の皆様との目線合わせの打ち合わせを実施しています。

## 6. 今後の活動

すべてのこども・若者たちが、よりよい教育の受益者となるよう、引き続き壁のない未来の教育の実装を試みる学校(生徒・教師)、研究者、協賛企業を募り、実践に基づいた研究からの政策提言を、マルチステークホルダー(国内外の教員養成・研修・学校現場だけでなく、実社会の関係者も含む)による対話により進めていきます。この夏には、「プロジェクト無限大」の国内参加者(生徒、教師、研究者など)を中心に、対面での切磋琢磨会を、東京、大阪などで、開催すべく、準備を進めています。

以上

### 【お問い合わせ】

東京学芸大学日本OECD共同研究国際共創プロジェクト運営事務局

Email: collective@u-gakugei.ac.jp

(別紙)

■自律分散型で実施されたワークショップ

日程	時間(日本時間)	名称(日本語)	内容	オンライン・対面・ハイブリッド	言語	collective impactのための共創パートナー
3月3日(金)	21:00-23:00	日本OECD共同研究マラソン月間キックオフ: OECD e2030:「ディベートから対話へ」	対話を大切にするEducation2030の文化を、ブラジルから「パウロフレイレの対話」、インドから「群盲評象」、日本から「吾唯足知」により、紹介 参加者数:45名、年代:20-50代、参加国:日本を含む世界16か国	オンライン	英語(日英同時通訳)	OECD E2030 教師グループ
3月4日(土)	16:00-18:00	高校探求プロジェクト:「令和の高校における授業改革」 東京学芸大学「高校探求プロジェクト」×日本OECD共同研究「壁のないあそび場-bA-プロジェクト」	高等学校における教員の「探究的な学びの実践コミュニティ」の創出を目的とする東京学芸大学「高校探求プロジェクト」と、OECD東北スクールのスピリット(過去を超える・常識を超える・国境を超える)を受け継ぎ、2030年のwell-beingあふれる教育や社会の実現を目指して、今ある様々な壁をあそびを通して乗り越えたい!と考える日本OECD共同研究「壁のないあそび場-bA-プロジェクト」が共創するイベント 参加者数:200名、年代:10-50代、参加国:日本	オンライン	日本語	東京学芸大学 高校探求プロジェクト
3月8日(土)	21:00-22:30	OECD e2030生徒部会:学校のウェルビーイング	生徒のみで自由に意見交換/e2030生徒部会の秘密基地 参加者数:25名、年代:10-30代、参加国:日本、フランス、アイルランド、ポルトガルなど、9か国	オンライン	英語(日英同時通訳)	OECD E2030 生徒グループ
3月10日(金)	17:30-19:30	OECD e2030グローバルフォーラム 福島とウクライナの生徒の声:放射能と戦争の中で共に生きる	ウクライナからは、チヨルノーブリ原発から約80km離れたナロジチ地区の高校生が、福島からは郡山市の高校生が、それぞれの「今」を語ります。 参加者数:120名、年代:10-60代、参加国:日本、ウクライナを含む世界16か国の生徒、教師、研究者、省庁、企業など多様なメンバーが参加	オンライン	英語・日本語・ウクライナ語同時通訳	Narodychy gymnasium (ウクライナの学校) 福島県立安積高校、福島県立郡山高校、伊藤駿(広島文化学園大学/NPO法人日本教育再興連盟) Chernobyl Hostage, Yukar(ウクライナのNGO)

<p>3月12日 (日)</p>	<p>13:00-15:00</p>	<p>先生って魅力的なオシゴト# 第一部「先生になりたい!」って思ったとき、それが私の「タイミング」! 早すぎない、遅すぎない!</p>	<p>「教員志望の学生が減っている」と言われる中、高校生の時から、また、社会人になってから、教員という職業を志望した時、しっかり制度が整っているのか。高校生や社会人の「教師を志望する想い」とともに、高校において、教職に関係する弾力的なカリキュラム開発に挑戦する福島・郡山高校と、社会人が働きながら教員を目指せる通信教育を実施している神戸親和大学の事例を紹介。教職魅力化につながる、「教職課程の多様化」を探る。</p> <p>参加者数:50名程度、年代:10-50代、参加国:日本</p>	<p>オンライン</p>	<p>日本語</p>	<p>福島県立郡山高校 神戸親和大学</p>
<p>3月12日 (日)</p>	<p>18:00-20:00</p>	<p>先生って魅力的なオシゴト# 第二部 日本と海外の教師になりたい学生たちとの対話会</p>	<p>他国から教師になりたい学生を招き、他国との比較を通じて、日本の「教職課程」を学生同士で見直した。特に各国で「教室」がどう異なるのか、子どもたちが学ぶ毎日の環境に焦点を当て比較。また教職課程の中でも、特に「教育実習」の内容・時間数など、他国との比較から、日本の教職課程の強みと課題を、対話する。</p> <p>参加者数:30名、年代:10-20代、参加国:日本を含む海外5か国から、教師になりたい学生・院生が参加</p>	<p>オンライン</p>	<p>英語・日本語、逐次通訳</p>	<p>E2030 FG2Cとして、日本の大学生がホストする形で開催</p>
<p>3月14日 (火)</p>	<p>18:00-20:00</p>	<p>人的資本/社会関係資本/自然資本の活用で地方が熱い!</p>	<p>経済資本以外にも、日本には豊かな資本があります。様々な資本を活用して「探究学習」が熱い秋田、島根、熊本、福島、大阪、姫路など「つながる」パワー。日本の中高と世界の学校がつながる、日本の学校が在外日本人学校とつながるネット事例を紹介!</p> <p>参加者数:65名、年代:10-50代、国籍:日本</p>	<p>オンライン</p>	<p>日本語</p>	<p>共創パートナー 一般財団法人 地域・教育魅力化プラットフォーム 一般社団法人未来共創イノベーション共同代表、 南小国町教育委員会アドバイザー 秋田県鹿角市の学校 プラハ日本人学校 福島県立郡山高校</p>



3月18日 (土)	16:00-19:00	私たちの創る「誰一人取り残さない」未来の社会 プログラムⅠ 私たちが取り組むSDGs—日本から世界へ—	SDGsがめざす「誰一人取り残さない」社会の実現に向けて、未来の社会を実際に担う「当事者」であるこどもたちが、その構想・構築の過程に参加していることが極めて重要。本シンポジウムでは、2023年にG7(7か国の政府代表の会議)、G-Science学術会議(7か国の学界代表の会議)、U7+(高等教育機関代表の会議)が日本で開催されるのを機に、日本の高校生・中学生が、自分たちが実践・構想しているSDGsの試みを世界に向けて発表したり、よりよい未来の社会を構想・構築するために現行の社会問題にどう取り組めばよいかを海外の高校生と議論したりします。  参加者数:200名、年代:登壇者は中高生10-20代、参加国:登壇者は日本、視聴者はE2030の海外生徒メンバー含む	ハイブリッド(大阪近郊の登壇者は大阪大学で、それ以外の参加者はオンラインで)	日本語、英語通訳(大阪大学手配)	大阪大学 社会ソリューションイニシアティブ(SSI)
3月19日 (日)	17:00-19:30	若手研究者の眼	インクルーシブな未来実現に向け、若手研究者が、日本の未来の教育の課題となるテーマに先駆けて立ち向かいます。若手研究者が力を発揮するための新たな取組みについても発表  参加者数:35名、年代:20-30代、国籍:日本(外国にルーツをもつ生徒も参加)	オンライン	日本語	国内若手研究者(広島文化学園大学、大阪大学、広島文化学園大学など)
3月20日 (月)	19:00-21:00	OECD e2030 EdTech部会: AIを教室で使う利点とリスク	OECD Education 2030 FG2B(社会パートナーグループ)メンバーが、Opportunities and Risks of AI for teaching & learningに関して対話する会議 参加者数:115名、年代:20-60代、参加国:日本、イスラエルを含む34数か国	オンライン	英語(日英同時通訳)	OECD Education 2030 FG2B(社会パートナー)グループ
3月21日 (火・祝)	16:00-19:00	私たちの創る「誰一人取り残さない」未来の社会 プログラムⅡ 私たちが創りたい未来の社会—大人たちに提言—	3/18の「私たちの創る「誰一人取り残さない」未来の社会 プログラムⅠ」を受けて、日本の中高生が、海外の中高生と英語で対話し、大人への提言をまとめる。  参加者数:40名、年代:10-20代、参加国:4か国(日本、アメリカ、カナダ、インドネシア)	オンライン	英語	大阪大学 社会ソリューションイニシアティブ(SSI)
3月22日 (水)	22:00-23:30	ECD e2030数学カリキュラム部会:ラーニングコンパスを数学で体現する	数学を通してラーニングコンパスを体現するとはどういうことなのか、様々な国や立場の方々からラーニングコンパスを体現する数学の授業やカリキュラムとはどのようなものを共有し、世界からの参加者と対話  参加者数:75名、年代:10-60代、参加国:17か国	オンライン	英語(日英同時通訳)	OECD Education 2030数学カリキュラム部会

3月24日 (金)	21:00-22:30	OECD e2030生徒部会:先生の「ことば」の重み	先生からかけてもらって嬉しかったことば、悲しかったことば (生徒のみで自由に意見交換/e2030生徒部会の秘密基地)  参加者数:25名、年代:10-20代、参加国:6か国	オンライン	英語 (日英同時通訳)	OECD E2030 生徒グループ
3月25日 (土)	19:00-20:30	同じ地面に立つ私たち、虹色の個性	立川学園(ろう学校)の生徒たちが、自分たちの<個性>を通して見える「日常の景色」を共有 手話で詩の朗読も披露。  参加者数:20名、年代:10代-50代、参加国:日本	オンライン	日本語	東京都立立川学園
3月26日 (日) 27日 (月)	26日 14:00-16:30 27日 10:00-13:00	北海道大学 COI-NEXT × OECD プロジェクト ∞ BEING ALIVE -新たな可能性を生み出す次代へ-	多様な人とのつながりがもたらす恩恵を知る(Learning to know)ためには、つながりを構築する(Learning to do)「新しいビジョン」が必要。その「新しいビジョン」に多くの人が触れられる(Learning to live together, Learning to live with others)、オープンな場への招待。時間と空間を共にし、人間として生きることを学ぶ(Learning to be)。インクルーシブなスポーツなど、生徒の声を起点に企画。  参加者数:1日目対面30名、2日目ハイブリッド45名、年代:中高生10代を中心に10-50代、参加国:日本(外国人学校生徒・教師含む)、シンガポール	ハイブリッド(会場:北海道札幌啓成高等学校 北海道大学 FMI 国際拠点ほか)	26日 日本語 27日 英語・日本語通訳	北海道札幌啓成高等学校 北海道大学 FMI 国際拠点
3月26日 (日)	9:30-17:00	福島ワークショップ	OECD東北スクール発祥の福島で、今の生徒たちが集まって、対面での集中スクール(WS)  参加者数:35名、年代:中高生10代を中心に10-40代、国籍:日本	郡山高校他	日本語	郡山高校、安積高校、あさか開成高校
3月28日 (火)	17:00-18:30	さんすう/数学苦手な子集合!	「OECD e2030の数学カリキュラム分析」と「福井の若手の数学の先生」と「生徒さん」とコラボ企画。さんすう/数学の壁は、その後様々な社会的/経済的壁につながってゆく可能性が高く、幼児期や小学校低学年からのさんすう・数学力の向上に力を入れる政策/カリキュラムが世界的にも移行中。このような背景の元、先生と生徒さんの問題意識や実体験から「苦手なさんすう/数学、好きになる〜!」の体験ができるようなアクティビティを企画。また、「評価」も、すでに決まったカタ(観点別評価やコンピテンシー評価)を当てはめるのではなく、とことん「生徒の声/着想から、ゼロベースで数学の評価を考える!」ことを始めていく。	オンライン	日本語	福井県永平寺中学校

			参加者数:35名、年代:10-50代、国籍:日本			
3月31日 (金)	17:00-19:00	ポ本OECD共同研究マラソン月間クロージング OECD e2030ラーニングコンパス部会:プロジェクト無限大生徒と教師の国際共創	プロジェクト無限大のパイロットとして既に共創を始めている、ポルトガルと日本(大阪・福島)の生徒・教師のコラボ企画。本年1/27に開催されたパイロットプロジェクトの経験をもとに、海外を日常に感じる新しい形の学びの実装を考えます。日本OECD共同研究月間を締めくくるオンラインWS。  参加者数:125名、年代:10-50代、参加国:ポルトガル、日本を含む、25か国から参加	オンライン	英語 (日英同時通訳)	OECD E2030 TWG4 ポルトガル:セクンダリア・デ・モイメンタ・ダ・ベイラ学校 Escola Secundária de Moimenta da Beira 福島県立安積高校、福島県立郡山高校 泉大津市立小津中学校